

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の  
結果について



平成 30 年 12 月  
海老名市立杉久保小学校

## 目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



## 資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。  
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

### 【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

### 【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

### 【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

### 【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

### 【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

### 【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

# 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

## ◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
  - ・ 中学校第3学年

## ◆ 調査内容

### (1) 教科に関する調査

#### 【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

#### 【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

### (2) 児童生徒に対する質問紙調査

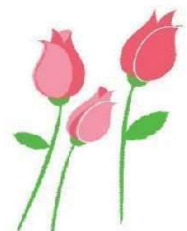
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

### (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## ◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



# 国語に関する調査結果

## 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「書くこと」では、自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の効果を考えて書くことができている。
- 「読むこと」では、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができている。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができている。

### 《努力を要する所》

- 「読むこと」では、目的に応じて適切な段落や部分を選び、情報を取り出しながら読むことができていない。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていない。
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解して使うことや、相手や目的に応じ適切な敬語を使うことができていない。

## 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができている。
- 「読むこと」では、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むなど、効果的な読み方を工夫することができている。
- 伝記を読んで、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができている。

### 《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、話し合いの参加者として質問の意図を捉えることができていない。
- 「学級において、自分たちの言葉の使い方を見直すために、立場を決めて話し合う」場面で、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめることができていない。

## これまでの取組から

- 「漢字の読み・書き」を国語学習の基礎とし、授業や家庭学習等で反復して練習する場面を多く設けてきた。実際に文や文章の中で正しく漢字を選択して使うなど、漢字を児童自ら活用し、応用する技能を高めていく必要がある。
- 「書くこと」では、相手や目的に応じたさまざまな表現方法を学習してきた。「読むこと」と関連させて、相手や目的に応じた表現方法を自ら取捨選択し、活用する経験を多く積ませる必要がある。

## 今後の具体的な取組について

- 「漢字の読み・書き」では、日頃から積極的に活用する意識をもたせる。例えば、授業では作文、新聞・リーフレットづくりなどで積極的に漢字を使わせる指導をし、家庭学習では日記・短文作り等で経験を多く積ませる。
- 「書くこと」では、「読むこと」と関連づけて、国語辞書や漢字辞典の利用を習慣づけたら、読書や新聞の活用をしたりする指導を継続していく。





# 算数に関する調査結果

## 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」「数量関係」では、1に当たる大きさを求める問題で、除数が小数である場合でも除法を用いることを概ね理解している。
- 「図形」では、円の直径に対する割合が一定であり、円周の直径に対する割合のことを円周率ということ概ね理解している。

《努力を要する所》

- 「量と測定」では、 $180^\circ$  や  $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めることができていない。
- 「数量関係」では、基準量と比較量を正しく捉え、割合の求め方及び百分率の意味を正しく理解し、求めることができていない。

## 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「図形」では、合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、正三角形四つでできている図形など、条件に合う図形を見いだすことができている。
- 数学的な考え方の問題を解決するために、示された考えを解釈し、50秒、60秒の場合など他の数値の場合に適用して、その結果を表に整理することで、条件に合う時間を判断することができている。

《努力を要する所》

- 「数と計算」では、折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができていない。
- 「32、40」の二つの数の和が9の段の数になる理由を、分配法則を用いた式に表すことができていない。

## これまでの取組から

- 算数的活動などで、具体物・半具体物を使って実感を伴った活動をしたり、式や図、言葉などを使って自分の考えをもち、発表する場を設けたりしてきた。また、朝学習や家庭学習等で復習する習慣をもたせてきた。基礎的知識・技能を定着させ、問題場面を的確に捉える文章読解力等を高めていく必要がある。

## 今後の具体的な取組について

- 問題場面を的確に捉えて、判断の理由を数学的に表現する力を高めるために、算数的活動など様々な学習方法を通して「式、図、言葉に関連づけて説明する」ことを引き続き大切にしていく。
- 日常生活の事象を、既習事項を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする場面を、学習の中に意図的に取り入れる。
- 具体的な操作や実験・実測などの活動を工夫し、量感をつかむことができるようにする。



## 理科に関する調査結果

《優れている所》

- 「生命・地球」では、安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想することができている。
- 「物質・エネルギー」「生命・地球」では、目的の時間帯だけモーターを回して扇風機を作動させるためには、『光電池を使ってモーターを回すことなどができること』『日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の動きによって変わることを、太陽の一日の位置の変化に合わせた切れ込みのある箱の中での光電池の適切な位置や向きに適用することができている。
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水の場合にも適用し、全体の重さを正しく量ることができている。

《努力を要する所》

- 「生命・地球」では、上流側の雲の様子や、雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について正しく分析し、考察することができていない。
- 「物質・エネルギー」では、ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶことができていない。
- 「物質・エネルギー」では、回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを正しく選ぶことができていない。

### これまでの取組から

- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの化学の基本的な概念を柱に、観察・実験など体験を伴った学習をすすめてきた。特に、学年に応じて理科専科の教諭や理科支援員による観察・実験を中心とした問題解決活動の充実により、知識・技能の定着が図られてきた。

### 今後の具体的な取組について

- 理科に関する知識・技能を、単に身につけているだけでなく、観察・実験を中心とした問題解決による学習活動や、実際の自然や日常生活などの他の場面で発揮できる経験を多く積ませる。



# 児童質問紙の結果より

## 学習について

### 《よかった所》

- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という設問では、そう思う、どちらかというと思うと答えた児童の割合が、県や全国の平均を上回っている。
- 「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」という設問では、当てはまると答えた児童の割合が、県や全国の平均を約20ポイント上回っている。

### 《課題と思われる所》

- 「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童の割合が、県や全国の平均より10ポイント以上低く、算数に対する苦手意識がみられる。
- 今回の国語と算数の調査に取り組む時間が足りなかったと答える児童の割合が高く、時間内で処理する力に課題がある。

## 生活について

### 《よかった所》

- 「将来の夢や目標をもっていますか」という設問では、当てはまると答えた児童が非常に多く、どちらかという当てはまると答えた児童の割合と合わせて約87%と、県や全国の平均を上回っている。
- 「学校のきまりを守っていますか」という設問では、当てはまる、どちらかという当てはまると答えた児童の割合が90%を超えており、県や全国の平均を上回っている。

### 《課題と思われる所》

- 普段家庭で過ごす時間で、学習時間が30分未満の児童が約20%、読書時間が全くない児童が約22%となっており、学習や読書の習慣が身につけていない児童の割合が高い。
- 放課後や週末に何をして過ごすことが多いかという設問では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている児童の割合が、県や全国の平均より高い。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、学校や家の人と約束したことを守れる児童が少なく、節度ある行動に課題がある。

## これまでの取組から

- 日々の学習の中で、話し合い活動や調べ学習を多く取り入れてきたため、意欲が向上している。今後も自分の考えを文章にまとめたり、発表したりするなどの、言語活動を充実させていく。
- 朝読書や、PTAの協力を得た本の読み聞かせなど、本に親しむ機会を大切にし、継続していく。

## 今後の具体的な取組について

- 家庭学習の充実を目指し、学年の発達段階を踏まえ、系統的な学習のあり方を検討する。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分に図るようになる。
- 携帯電話やスマートフォン、ゲームに関する子どもへの「ネチケツ」を学ぶ機会を定期的に設けるとともに、保護者へ様々なインターネットトラブルの現状や気をつけることを伝えていくようにする。



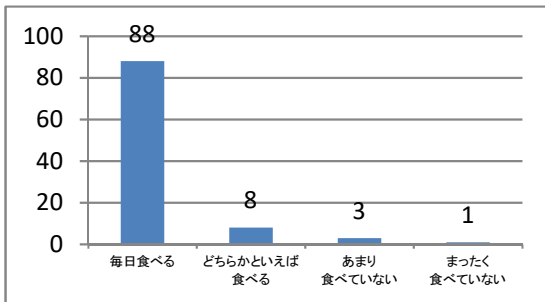
# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

## 1 毎日、朝食をとりましょう。

朝食は一日の活動の大切なエネルギーです。しっかりと朝食をとらせ、登校させてください。

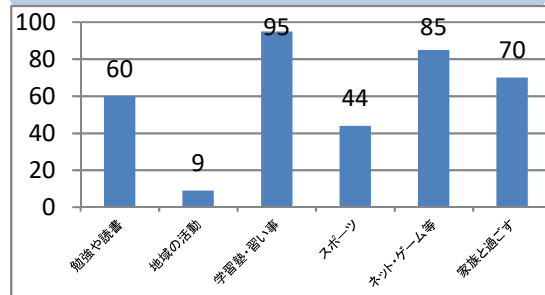
### 朝食を毎日食べていますか。



## 2 ゲームやPC、スマホゲーム、SNSなど、時間を決めてやりましょう。

情報機器を使う時間を決めるなどをして、家族とのコミュニケーションの時間を増やすことも大切です。

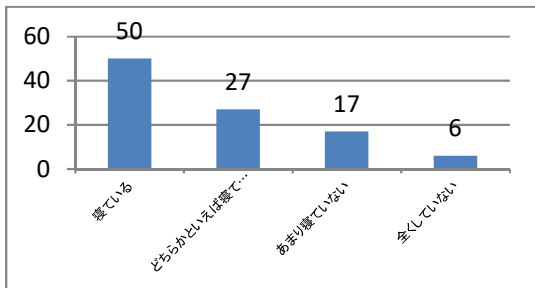
### 放課後に何をして過ごすことが多いですか。(複数回答可)



## 3 睡眠時間の確保を。

体をつくる成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切です。早寝・早起きを心がけてください。

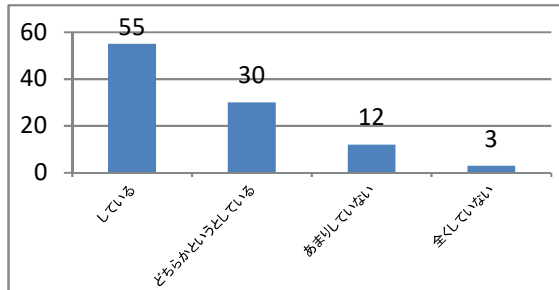
### 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



## 4 家庭でのコミュニケーションの確保を。

家庭でのコミュニケーションを増やし、学校での出来事や友達関係といった様子をみてってください。

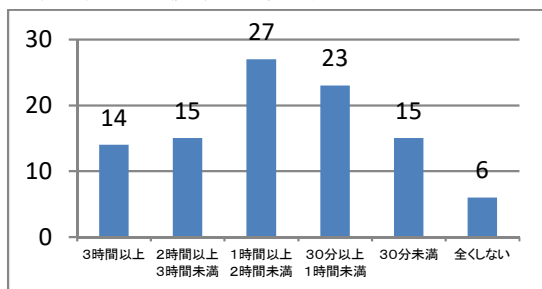
### 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



## 5 毎日、家庭学習の時間を決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが学習の定着につながります。時間や場所を決める等の学習習慣が大切です。

### 普段一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(塾・家庭教師を含む)



## 6 地域とのつながりを大切にしていきましょう。

子どもは地域で育ちます。今後も地域での催しには進んで参加をうながしてください。

### 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

